

開講科目名 / Course	在宅看護援助論	
ターム・学期 / Term・Semester	2025年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期、3 学期 / Second, Third	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	福田 広美	
担当教員名 / Instructor	福田 広美、荒木 章裕、矢野 亜紀子、大矢 七瀬	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	在宅看護援助論では、在宅看護学概論で習得した在宅看護の基本的な考え方、援助方法、ケアマネジメント、社会資源、多職種連携などの知識を基盤に、紙上事例を通じて、在宅療養者とその家族に対する看護展開を学ぶ。授業は講義とグループワーク形式で行う。	
到達目標	1. 事例において、在宅療養者とその家族に対する看護過程を展開できる。 2. 在宅療養者とその家族の意思を尊重した看護計画を立案できる。 3. 在宅看護で用いる看護技術の方法を説明できる。	
DPとの対応	1. 心豊かな人間性・倫理観、3. 看護の基盤となる専門知識・技能、4. 連携協働・リーダーシップ	
授業計画	01. オリエンテーション、在宅看護の実際ー事例をまじえてー（外部講師） 02. 事例による看護展開（1）グループワーク：情報整理 03. 在宅看護で遭遇する看護援助技術（在宅酸素療法、中心静脈栄養など） 04. 事例による看護展開（2）グループワーク：アセスメント 05. 事例による看護展開（3）グループワーク：看護課題の抽出 06. 事例による看護展開（4）グループワーク：看護計画の立案 07. 事例による看護展開（5）発表 08. 事例による看護展開（6）発表	
その他の授業の工夫	視聴覚素材を用い、在宅療養および在宅看護についてイメージできるようにする。 外部講師として在宅看護の第一線で働く訪問看護師を招き、在宅療養、在宅看護の実際を臨場感をもって伝える。 学生が主体的に学ぶため、グループワーク、討議、発表など、アクティブラーニングを実施する。 グループワークでは、グループへの積極的な参加・貢献について、自己・他者評価を行う。	
時間外学修	事前学修： 【講義】事前配布される講義資料を用いて予習を行う（4h）。 【グループワーク】担当事例について予習を行う（8h）。 事後学修： 【講義】講義内容に関するレポートを作成する（2h）。 【グループワーク】教員に指導を受け、看護過程を修正する（8h）。	
評価方法と評価割合	平常点：30%（発言等の積極性） レポート・提出物：50% グループワークの他者評価：20% 出席時間数の3分の2以上の出席を評価対象とする。	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 [1]（医学書院）	
参考書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 [2]（医学書院）	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	福田広美：病院での勤務および訪問看護ステーションでの実務研修の経験 荒木章裕：病院での勤務および訪問看護ステーションでの実務研修の経験 矢野亜紀子：病院での勤務および訪問看護ステーションでの研修の経験 大矢七瀬：病院勤務および地域の母子への支援経験
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	訪問看護ステーションに勤務する看護師
実務経験をいかした教育内容	看護の実務経験を活かして、在宅看護の知識や技術について教育する。	